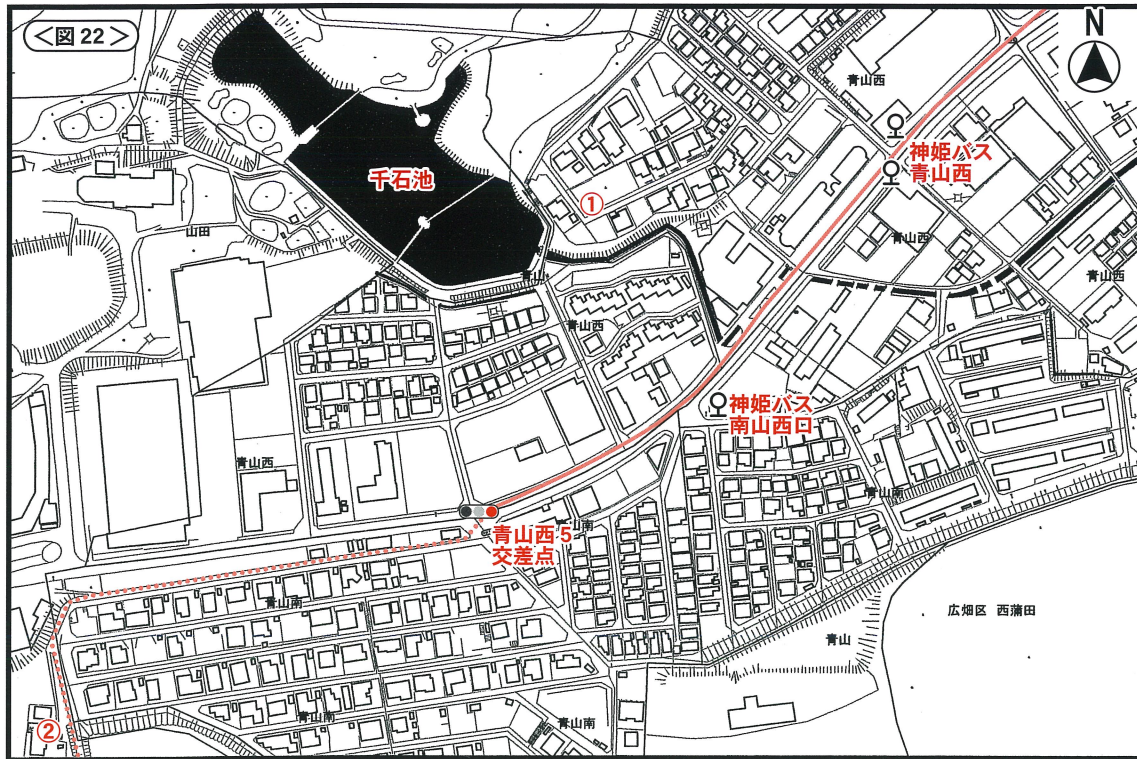
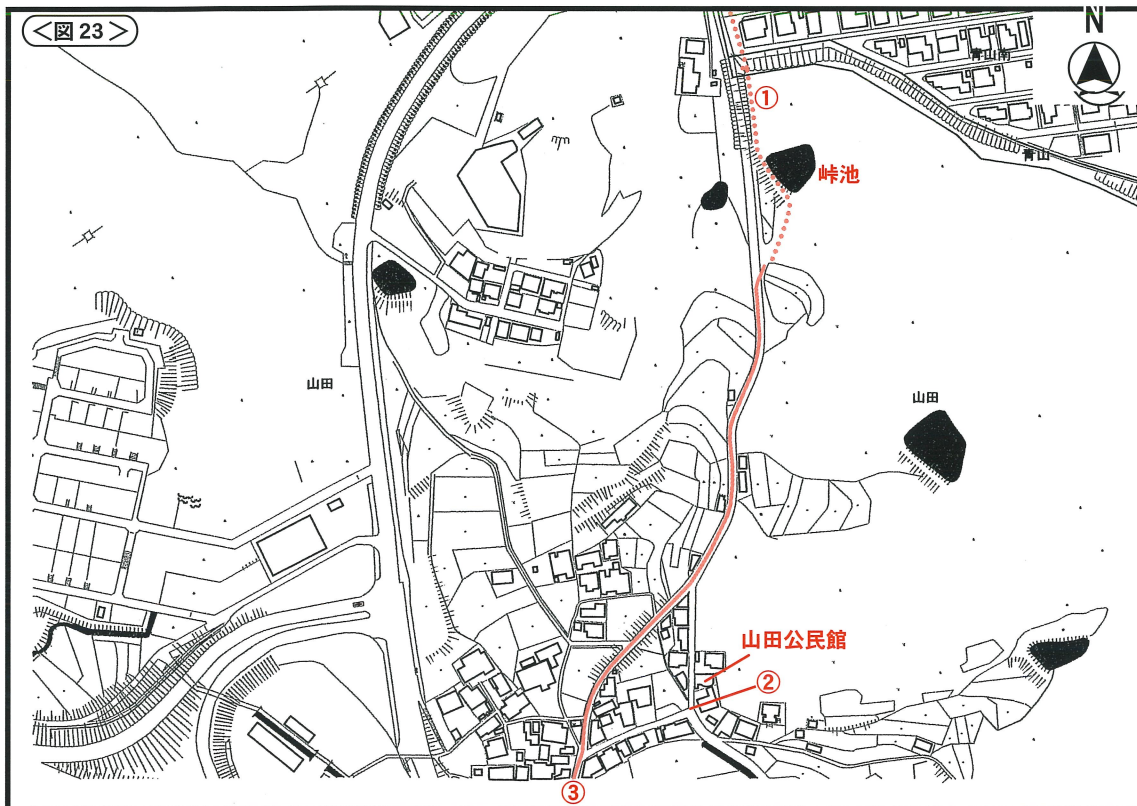




『西国街道』をたずねて その3

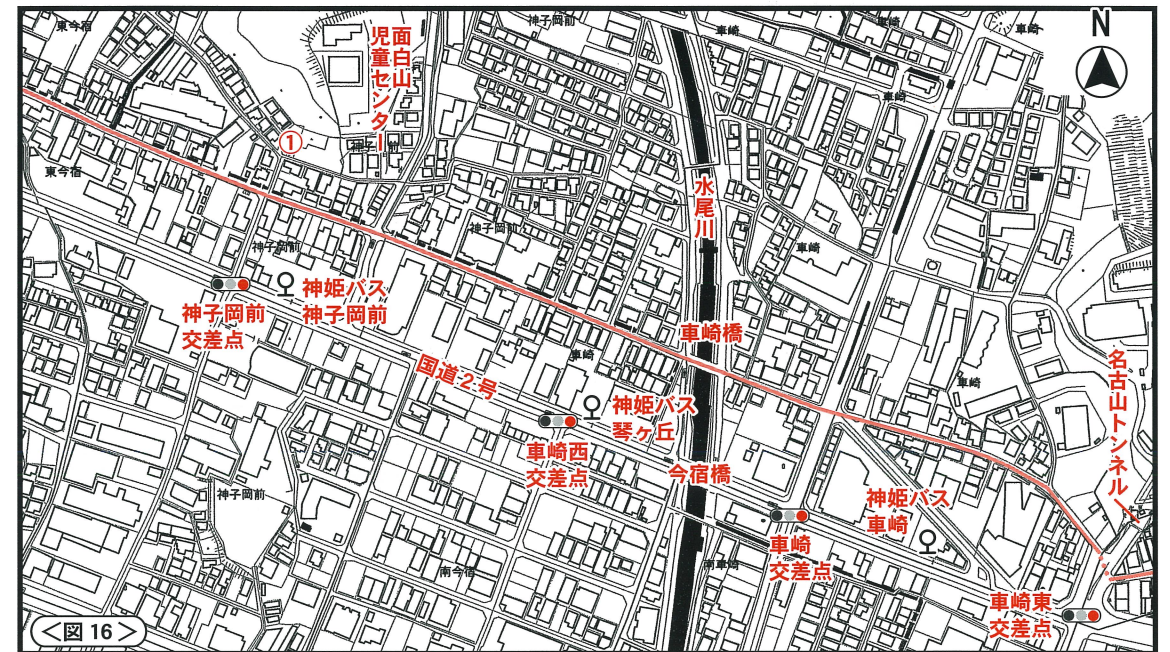


①小丸山跡(宅地化されたが、播磨守護山名宗全の屋形跡と伝え、また永禄12年(1569)赤松政秀陣地を黒田官兵衛が襲撃した青山古戦場跡という) ②順海寺(真言宗醍醐派、播磨西国十二番札所、山田峠(笹峠)頂上付近に建つ、境内に四国八十八ヶ所廻りを設ける)

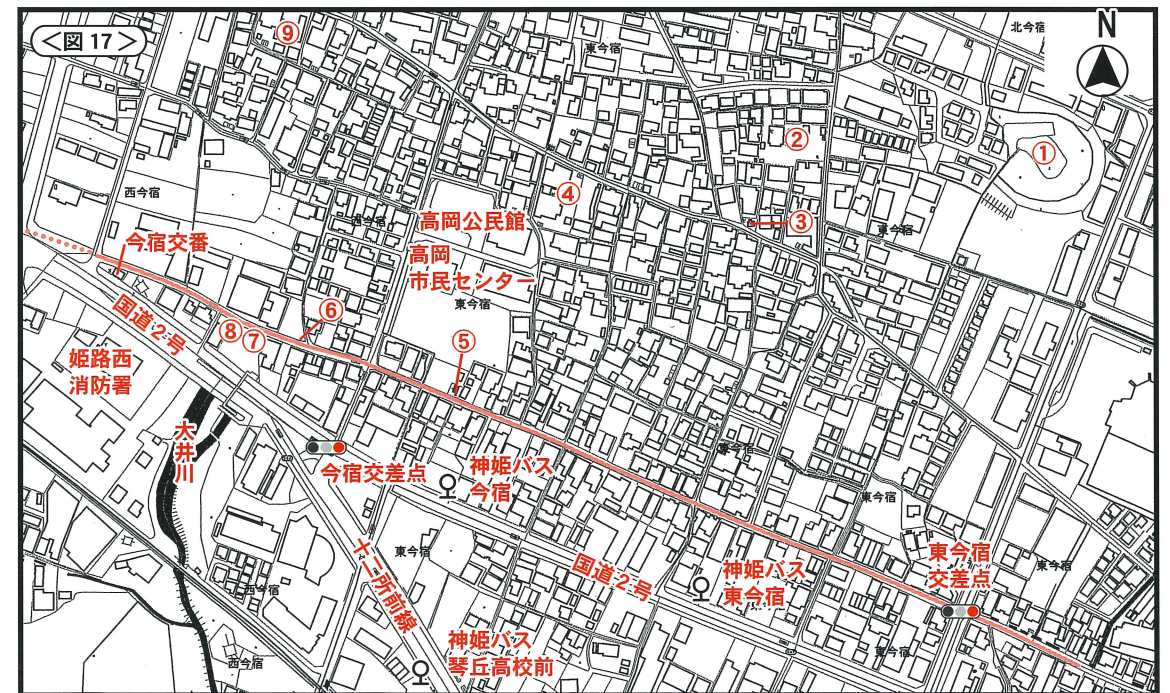


①山田峠(青山峠、笹ヶ峠ともいう、天保4年(1833)青山村明細帳に幕府(一橋)領青山村と龍野藩領山田村の境界標示が峠にあった、江戸時代には切通しはなく難所であったという) ②道標(右 おか山 左 ひめし) ③集落を南下すると明治18年(1885)明治天皇山陽道巡幸時の山田小休所がある、これより北上して山田峠を越え姫路に向かった

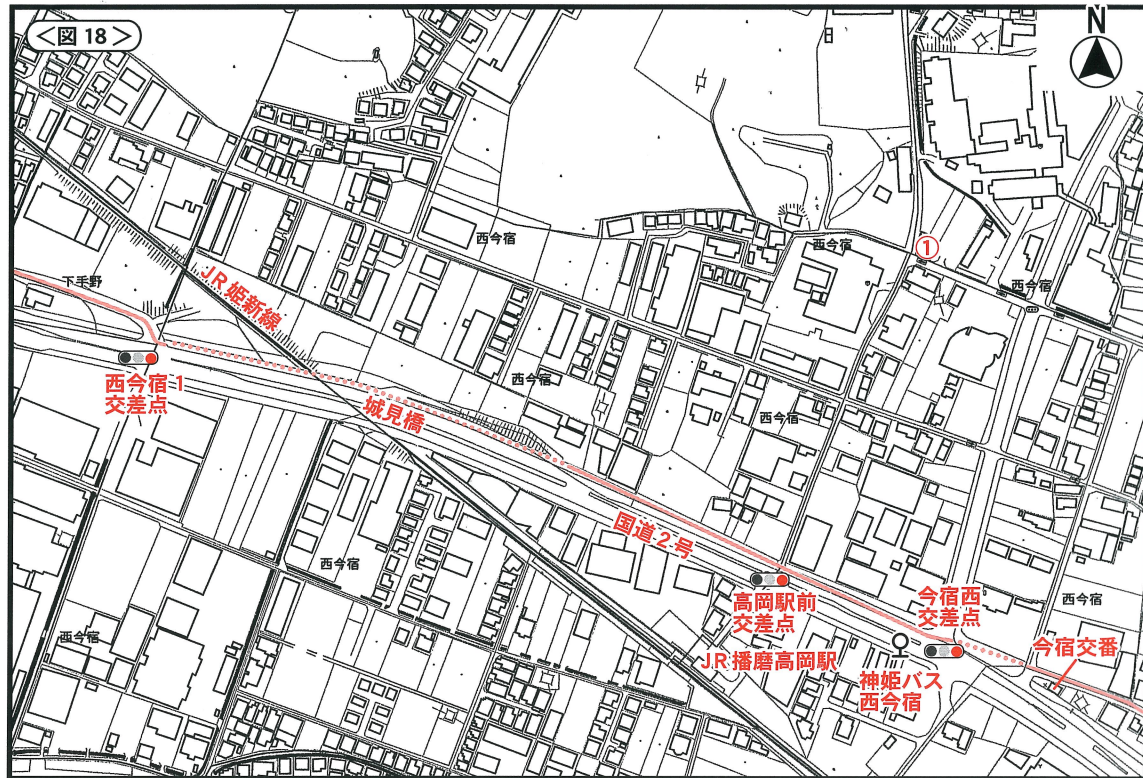
編集 姫路市文化財保護協会



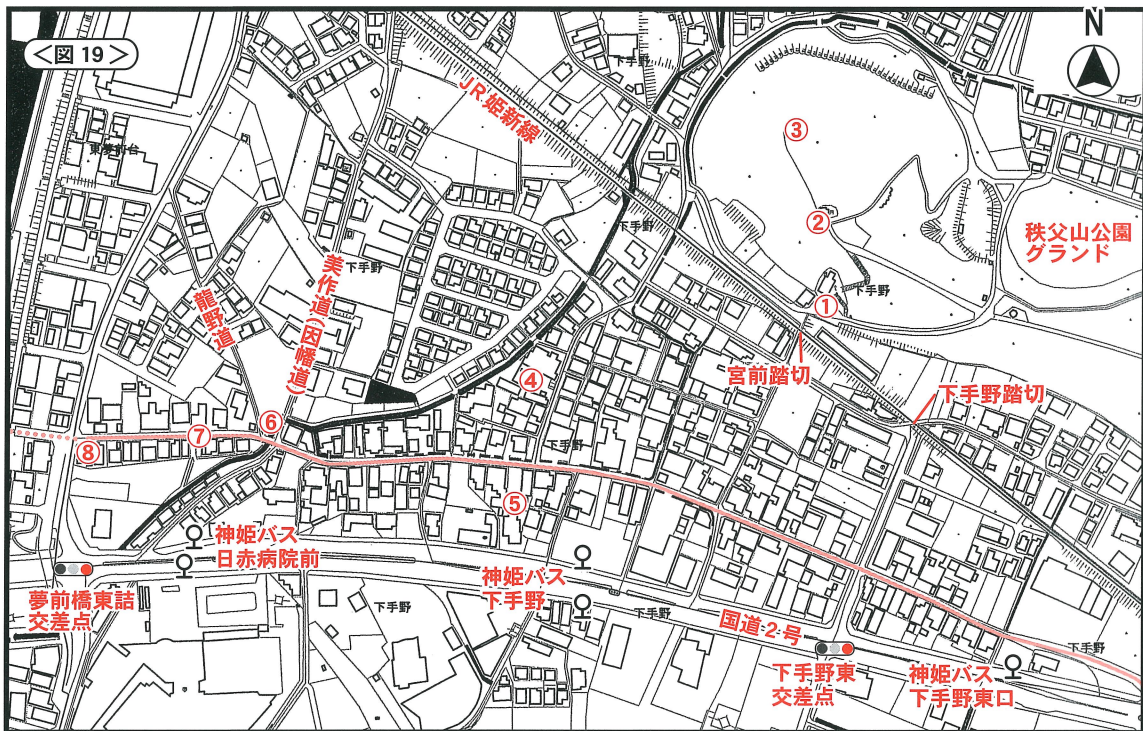
①延宝9年(1681)題目塔(元祖(日蓮)400年忌に姫路法華宗中が建立)



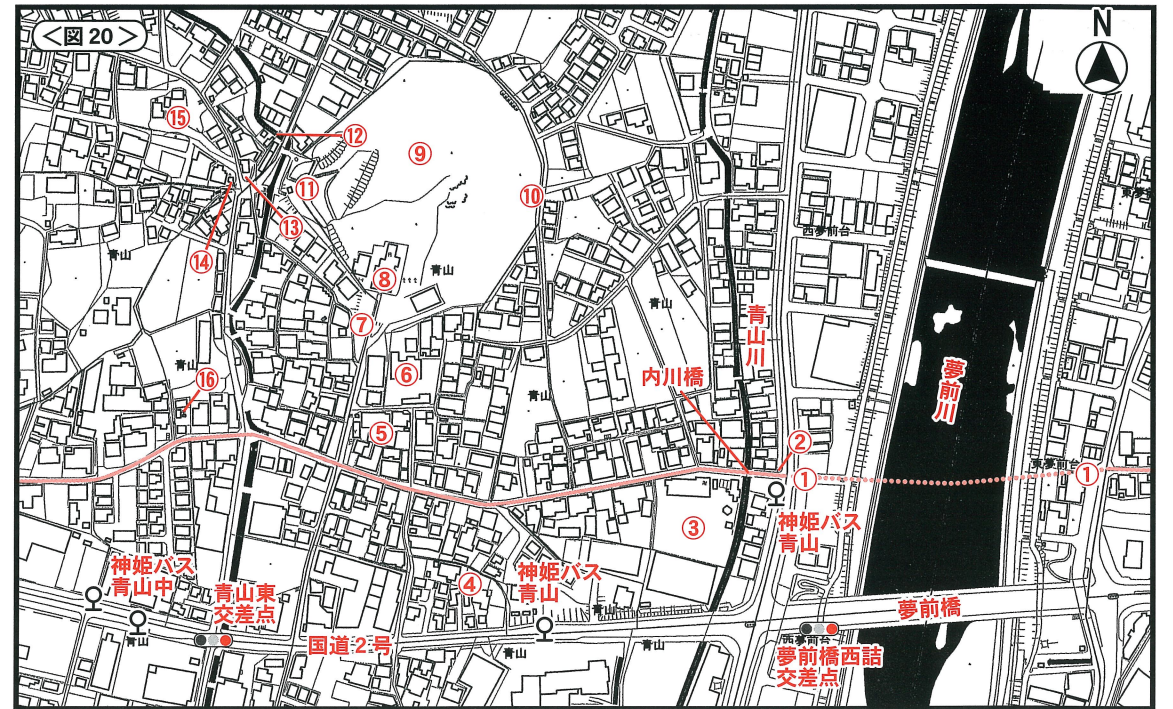
①今宿古城跡(三味山、城山に比定され「播磨鑑」に姫路城は今宿の古城をうつつて姫路城大手先は古城大手先のごとし、とある) ②昌楽寺(天台宗、「峯相記」に巨智延昌(播磨大掾)が安室郷内に建立した寺院とし、「播磨鑑」に花山院が書写山御幸の際に二度立ち寄ったと記す)。境内に東今宿八幡宮、東今宿稲荷大明神、花山法皇御手植松碑。 ③薬師堂(花山法皇御在寄旧跡碑、力石及び顕彰碑あり) ④西源寺(天文2年(1533)創建、のち真宗道場となり寛文中(1661~73)に顕如上人より寺号をさずけられた。安政6年(1859)東山焼燈籠は市指定文化財) ⑤高岡村道路元標(大正6年旧道路法により同11年内務省令により規格・形状等が定められ自治体の中心部に設置) ⑥明治3年(1870)高岳神社参道道標(庚午閏十月、姫路藩庁) ⑦大井川地藏尊(お土蔵尊、茶屋の地藏さん・道祖神ともいう、この付近大井川水源、夢前川旧流路という) ⑧昭和7年(1932)高岳神社参道道標(西丁茶屋中、この付近は茶屋も多く賑わいがあったという) ⑨長久寺(浄土真宗本願寺派、天文22年(1553)創建、付近一帯は田寺氏の西今宿構居跡と推定、西側の地藏堂には明治27年(1894)力石(切付に当村八ツ頭勇太郎持之)、北西の観音堂はもとは式内社高岳神社の神宮寺と伝わる)



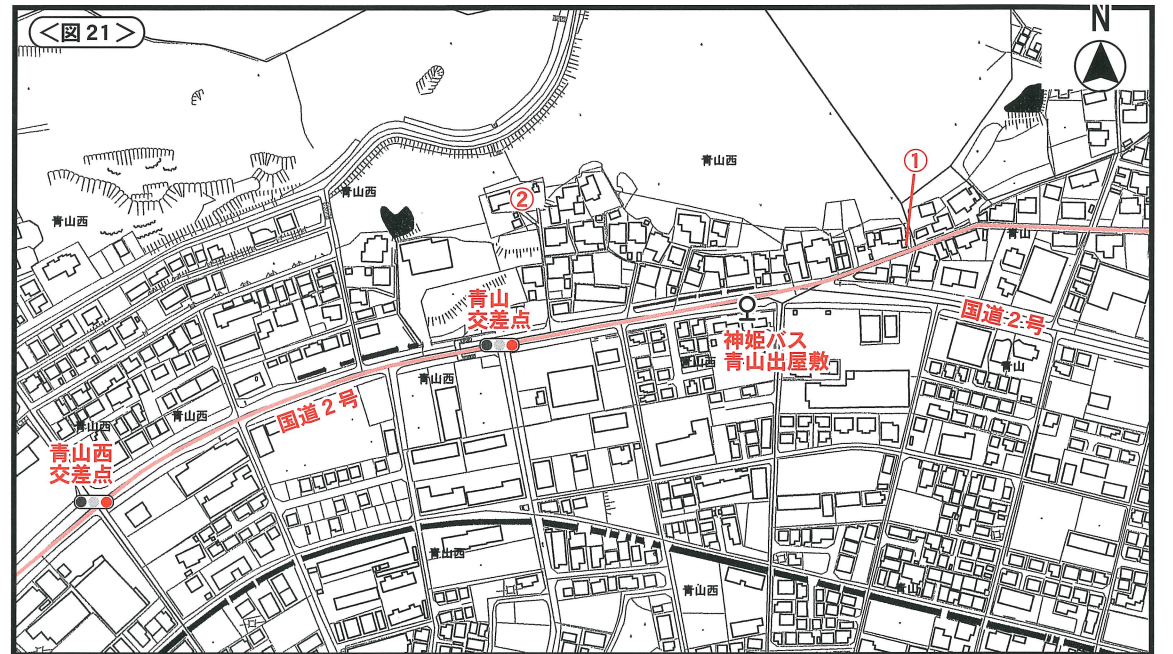
①六才堂地蔵



①船越神社(下手野の氏宮、境内に三森社) ②金刀比羅宮 ③秩父山(土器山(かわらけやま)、瓦山(かわらやま)、下手野村北山ともいう、黒田家譜に永禄12年(1569)青山に布陣した龍野城主赤松政秀に対し黒田官兵衛がこの地に布陣したという、瓦山の名称は嘉吉の乱後に播磨守護山名宗全が青山に建立した宗全寺の瓦を焼いたことが由来という) ④来法寺(真宗大谷派、元和3年(1617)創建という) ⑤地蔵堂 ⑥明和4年(1767)道標(西国街道と龍野道・美作道の分岐点に建つ、円光大師(法然上人)二十五霊場の道標は珍しくJR曾根駅北側にもある、宝暦11年(1761)法然上人五百五十回忌を契機に二十五霊場めぐりが始まるという) ⑦一里塚跡(道の両側に塚があったという、西国街道の一里塚跡は西御着にもある) ⑧文政10年(1827)金比羅山常夜灯(桔梗屋建立、この付近が渡し場跡)



①夢前川渡し場跡推定地(徒歩渡しという、仮橋が架けられることもあった) ②安政2年(1855)青山石造道標(西国街道と龍野道・美作道の分岐点に建つ、龍野道・美作道は幕末に夢前川西岸北上ルートが主となるようである、花崗岩製五角柱、市内最大規模の道標、市指定文化財) ③教専寺(真宗大谷派、もとは宗全寺跡付近にあり運如の播磨布教により門徒が増大し現地に寺院として建立という、享保年間の本堂建立記念に植えられた松は街道往來の人々が振り返って見たことから見返りの松と呼ばれるようになったという) ④稲荷堂 ⑤四万六千(しまろくせん、如意輪観音坐像の板碑を記る) ⑥旧青山村庄屋敷跡(青山村継飛脚番所も差配、幕末に屋敷内に寺子屋「廣観堂」を設立) ⑦素類業肇起記念碑(明治20年代半ばより昭和初期まで青山では素類製造が盛んであった) ⑧稲岡神社(社記に豊受姫大神と射目崎明神を祭神、「三代実録」貞観10年(868)条に射目崎明神が見えることから国史見在社という、社殿東側の稲荷社の狛犬は寛政2年(1790)、社殿西側の金刀比羅神社の拝殿は絵馬殿を兼ね、天和2年(1682)稲岡神社境内図絵馬、文政13年(1830)お陰参り図絵馬(県指定文化財)など貴重な絵馬が伝えられている) ⑨稲岡山(「播磨国風土記」飾磨郡伊和里条十四丘の稲丘(稲牟礼丘)に比定される) ⑩和泉式部腰掛石(宝永2年(1705)姫路城主榊原政邦はこの地を青山八景の一「歌書秋月」と詠んだ、この付近はかつて夢前川の淵で柿本人麻呂ゆかりの「歌書が淵」と呼ばれ、和泉式部が腰掛けて歌を詠んだという岩が歌碑とされたと伝える) ⑪浅蔭沼跡(寛延3年(1750)「播磨古跡便覧」に「浅蔭ノ沢」とあり人麻呂の古跡と記す) ⑫かけ樋(江戸時代の石像交差水路) ⑬寛政7年(1795)道標(右しよしや道 左山みち) ⑭立江地蔵尊(昭和4年(1929)、もとは西国街道沿いにあり四国第十九番立江寺延命地蔵を記る) ⑮人丸神社(柿本人麻呂を記る、本殿は方形造で宝珠の棟飾) ⑯薬師堂(宗全寺跡、嘉吉の乱後に播磨守護山名宗全が一族家臣の戦死者を弔うためにこの地に宗全寺を建立したという、堂東に五輪塔残欠群)



①明治33年(1900)青山製紙組合碑(明治17年青山村の山口重太郎が大坂より紙の製法を伝え和紙製造が盛んになったという、製紙を創始した米谷勝松を顕彰、品川弥次郎子爵の和歌「いたつきを積める功は此の紙の雪の表にあらわれにけり」を刻む) ②白幣稲荷大明神(境内に製紙組合寄進の石燈籠あり)